

# Bridge Asia Japan BAJ

認定特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン

## 年次報告書

2009年1月1日～12月31日

2009年度



2010年6月30日 発行

# 2009年度 年次報告書

(2009年1月1日～12月31日)

もくじ .....



2009年度を振り返って .....	3
BAJの3つの目標 .....	4
海外支援活動報告 I ミャンマー事業報告 .....	5
ミャンマーの概況	
ミャンマーのプロジェクトマップ	
ミャンマー2009年度事業報告(2009年1月～12月) .....	6
1 ラカイン州北部地域開発事業	
(1)車両や機械類の整備事業	
(2)インフラ整備事業	
(3)コミュニティー社会開発事業(CSDP) .....	7
(4)ラカイン州シトウエ地域開発事業	
2 中央乾燥地域における生活用水供給事業 .....	8
(1)新規深井戸掘削事業	
(2)既存深井戸の修繕事業	
(3)井戸の長期維持管理支援事業	
(4)ローカルメンテナンスチームの育成 .....	9
(5)学校建設事業	
(6)その他の事業	
3 南東国境事業 .....	10
(1)給水施設建設と地下水調査	
(2)井戸の維持管理と衛生知識の講習 .....	11
(3)避難民村の簡易住宅建設	
(4)水質についての講習実施	
4 サイクロン被災地域復興支援事業 .....	12
(1)学校再建・修繕事業	
(2)防災教育の普及事業	
海外支援活動報告 II ベトナム事業報告 .....	13
ベトナムの概況	
ベトナムのプロジェクトマップ	
ベトナム2009年度事業報告 .....	14
1 ホーチミン市での事業	
(1)障害児者支援事業	
(2)アンカイン地区生活改善事業	
(3)環境教育活動 .....	15
(4)中学校での環境教育事業	
(5)ばじこ教室の開設 .....	16
2 フェ市生活改善事業 .....	17
(1)教育支援事業と奨学金授与	
(2)環境教育活動	
(3)その他の活動 .....	18
3 クイニン市環境教育事業	
国内活動報告 I 東京本部事業報告 .....	19
東京本部の概況	
東京本部2009年度事業報告	
1 認定NPOと資金の調達	
(1)資金の調達	
(2)寄付・募金の拡大 .....	20
2 広報活動	
(1)情報発信	
(2)活動の広報 .....	21
3 スタッフの育成 .....	22
4 海外プログラムの支援 .....	23
(1)招へいと派遣	
(2)物資の調達 .....	24
(3)活動現地の視察	
5 技術協力事業	
(1)JICA技術協力プロジェクト	
名簿・組織図 .....	25
職員名簿・役員名簿・組織図	
2009年度会計報告 .....	26
収支計算書	
貸借対照表 .....	27



## 2009年度を振り返って

こうして、2009年度の年次報告書を、皆様にお届けすることができましたことを、皆様への心からの感謝とともに喜んでおります。

また、2009年1月末の事務局長・新石の死去、さらに2010年2月の技術部長・木村の突然の死などBAJにとって非常に苦しい試練が重なりましたが、態勢を整え、事業活動を滞りなく進めることができました。これもひとえに皆様からのご支援とご協力の賜物と、御礼を申し上げます。

さて、2009年度は、懸案でありました認定NPO法人としての要件をクリアして、2014年までの5年間の更新が承認されました。社会的責任を感じますと同時に、皆様からのより一層の信頼を獲得すべく、事業の完成度を高めていかなければならないと気持ちを引き締めております。

資金調達につきましても、当初の目標を上回る寄付を達成することができましたことを皆様にご報告し、心からの感謝を申し上げます。

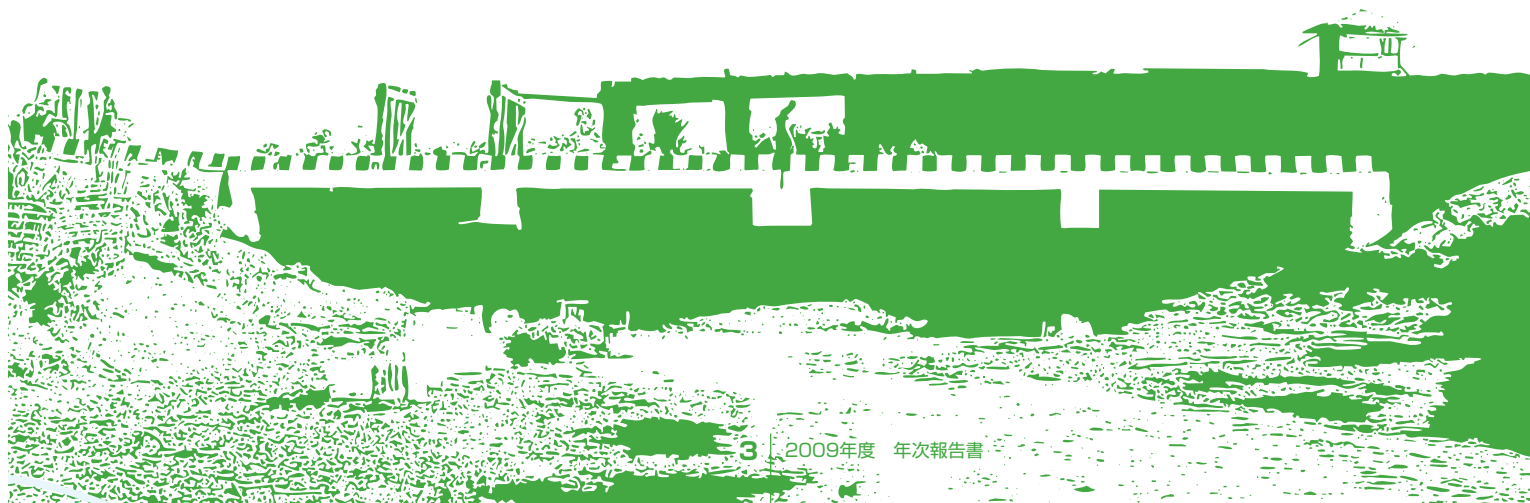
事業の運営面では、総選挙をひかえたミャンマーでの活動について厳しさが増しておりますが、幸いにローカルスタッフが育ってきており、新しい取り組みへの提案などもあがってきており、より効果的な活動を進めることができるようになっております。


またベトナムでは、対象地域であった貧困地域の住民移転が急展開していますが、こちらも子どもたちが中心になって移転先での環境改善の活動を開始しています。さらに、ホーチミン市では、放課後の時間を使って工作や科学を楽しく学ぶ「ばじこ教室」を新しく立ち上げています。

2010年も引き続き、人材の育成と技術の移転をテーマに、ミャンマーとベトナムでの活動を進めていく所存ですので、引き続き皆様からのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

特定非営利活動法人  
ブリッジ エーシア ジャパン  
理事長

根本 悦子





# BAJの3つの目標

私たちはいま、貧困、難民、環境破壊など、国境を越えた世界規模の問題に直面しています。BAJは、こうした解決が不可能と思われる問題に対し、地域から考え、地域で行動を始めることで解決の道を探ります。とくに日本と関係の深いアジアの人々と連帯しながら、健康で幸福な生活につながる環境を整備し、アジアの人々との共生を実現するために、政治体制や民族、宗教、言語、文化の違いを越えて、相互理解の架け橋となるようお願いしながら、3つの目標を定め、活動を進めています。

## 1 技術習得や能力強化の機会を提供

帰還民や国内避難民、障害を持つ人や教育の機会に恵まれなかった青年、雇用機会の少ない女性など貧困層を対象に、地域にある適正技術や伝統技術を活用し、新しい技術も取り入れながら、技術習得や能力強化の機会を提供します。

- 視覚障害者の技術習得や就学支援
- 貧困青年のための技術研修の実施（電気、溶接、エンジン修理、裁縫など）
- 現地スタッフのスキルアップのための機会提供
- 社会的に弱い立場にある女性や帰還民を対象に、識字や生活改善などの訓練実施
- 女性の技術習得や能力向上活動を理解するための男性対象のワークショップ開催
- 貧困層の子どもを対象とした、就学支援や補習クラスの実施

## 2 収入向上の支援

習得した技術を収入に結びつけるため、必要な知識や具体的な場を提供し、自立を支援します。

- 裁縫技術を習得した女性の訓練生に対し、裁縫訓練施設を提供して技術的アドバイスや販売の支援
- 裁縫訓練修了者を対象に、就業の機会を提供し、自立を支援
- 貧困地域の世帯を対象に、マイクロクレジットや貯金活動を行い収入向上を支援
- 伝統農産物の復活と販売ルートの確立

## 3 地域発展のための環境基盤整備

地域経済を活性化させるための基盤となる学校や橋、井戸の建設などを、地域住民の参加を得ながら進めます。実際の建設では、住民に“オン・ザ・ジョブ”で実地訓練を行いながら事業を進め、保守や管理を地域の人たちが担えるように支援します。

- 住民参加で橋梁や棧橋、道路、学校を建設
- 生活用水を確保するための井戸掘削・建設、既存井戸の修繕
- 住民自身のゴミ分別活動を通じた生活環境の改善
- 生ゴミの堆肥化による都市と農村をつなぐリサイクル農業の推進
- 貧困層居住地域での保健衛生指導



## ミャンマーの概況

2009年2月、バングラデシュ国境地域に住むイスラム系住民が難民となってタイ、インドネシアなどに漂着したものの、追い返されるという事件に端を発し、3月に国連難民高等弁務官（UNHCR）がラカイン州を視察し、この地域の支援活動拡大を決めました。

一方、1月にアメリカの大統領に就任したオバマ氏は、対ミャンマー政策について見直しを行うという方針を打ち出し、注目されています。具体的には、ミャンマー側の動きに応じて制裁を段階的に見直していく方針です。

2010年に入って話題は総選挙の実施時期に移っていますが、秋以降ではないと言われていています。そのためか、外国人のビザ申請や移動に厳しい制限がつくようになっており、NGOの活動も計画通りに進めることが困難になっています。さらに国境地域、とくにムスリム系住民の周辺諸国への流出が増大しています。

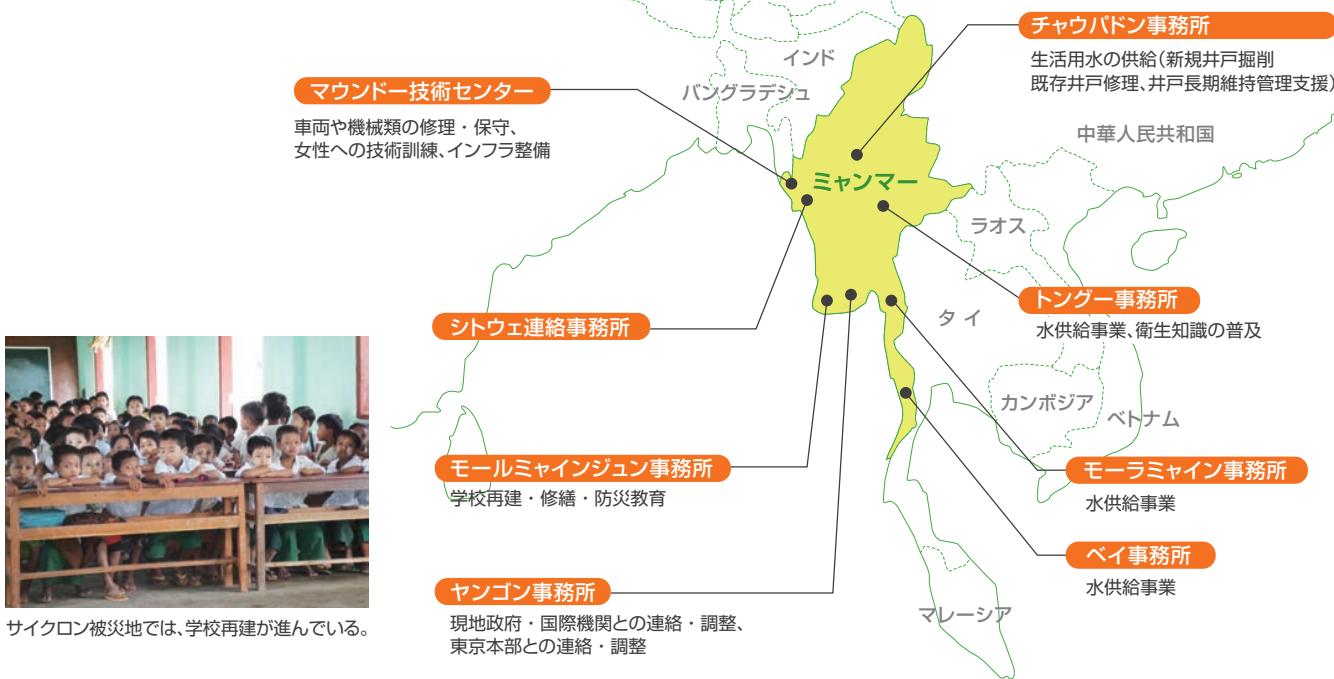
## ミャンマーのプロジェクトマップ

UNHCRがラカイン州での活動強化を決めたため、BAJのインフラ整備事業は大幅に拡大しています。また、マウンダー郊外の川辺に最貧困層の人たちの村があり、この地域を対象にした支援事業も開始しています。

中央乾燥地域で実施している生活用水供給事業では、1999年から10年経過して、これまでに100本の井戸を建設し、2月には100本記念式典を実施しました。また、村人の手で給水施設の維持管理が行えるよう、ローカルメンテナンスチームを再編成してOJTによる訓練を行い、スキルアップに努めています。さらに、学校での衛生教育を視野に入れて、学校建設事業も始まりました。

2004年より開始したタイ国境と接する南東国境事業では、これまでに270本の井戸建設・修復を進めてきましたが、あらたに住民を対象に衛生知識の普及や簡単な井戸の管理講習を実施しています。

2008年5月に発生したサイクロン被災を受けたデルタ地域では、損壊を受けた学校約60校の再建・修復を進めてきました。こうした事業を通して子どもたちや先生と関係をつくり、防災教育をスタートさせています。



サイクロン被災地では、学校再建が進んでいる。

# ミャンマー2009年度事業報告 (2009年1月~12月)

## 1 ラカイン州北部地域開発事業

ポートピーブルの流出が報道された結果、UNHCRやJICAがこの地域に対し強い関心を示し、事業拡大を予定しています。しかしミャンマー政府は総選挙を控え、外国人の長期滞在に厳しい制限をかけており、その結果、事業に必要な人材、とくに海外からの人材の長期滞在ビザの許可が出ず、事業進行上支障が出ています。

### (1) 車両や機械類の整備事業

【資金：国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)】

バングラデシュとの国境の町マウンドーには、帰還民の受け入れ機関であるUNHCRをはじめUNDP(国連開発計画)/UNOPS(国連プロジェクトサービス機関)やWFP(国連世界食糧計画)などの国連機関や、ACF(フランス)、AZG(オランダ)など国際NGOの事務所が設置され、さまざまな活動を進めています。BAJはそうした団体が使用する車両や機械類のメンテナンスや修理、燃料のろ過サービスを実施して、この地域で活動する団体のサポートをしています。

2009年もBAJがサービスを提供した車両や機械類について無事故を達成し、修理やメンテナンスはのべ741回、ろ過サービスはのべ118,292ガロンでした。



アクセスの悪いこの地域では、他機関の車両整備も行う

一方、この地域で生活する青年たちは、技術的な知識や訓練を受ける機会がほとんどありません。そこでBAJは地元を青年を対象に、単気筒エンジンとバイクの修理・メンテナンスの技術訓練コースを実施しました。2009年は、BAJワークショップで4回、各村で5回の訓練コースを実施し、のべ133名が修了しました。

### (2) インフラ整備事業

【資金：日本大使館草の根無償資金協力(GGA)、UNHCR】

帰還民を地域に戻し、再び難民として流出せずに安心して暮らすことができるよう環境を整備することが重要です。雨季になると、河川の氾濫や土砂崩れなどで孤立してしまうこの地域に対し、BAJは橋や栈橋、歩行橋を建設し、地域経済の活性化を支援してきました。

とくにラティドンタウンシップのアウナンヤ村は、470世帯のうち56%が帰還民の村で、公的な施設が何もありませんでした。そこで総合開発として学校校舎や診療所、トイレの建設、ため池改修、未亡人の家の再建など、総合的な村落開発を実施しました。

2009年度実施のインフラ整備事業は以下の通りです。

No	プロジェクト	位置(村名)	開始年月日	完了年月日	資金
1	カバゴン歩行橋	マウンドー北 カバゴン村	2008. 03.10	2009. 02.28	日本大使館
2	アウナンヤ村 総合開発	ラティドン、 アウナンヤ村	2009. 05.01	2009. 08.31	UNHCR
3	マウンドー栈橋改修	マウンドー UNHCR 栈橋	2009. 05.31	2009. 06.30	UNHCR
4	シュウェザー橋梁建設	マウンドー・ シュウェザー村間	2009. 07.01	—	UNHCR
5	マウンドー南部 6橋梁建設	マウンドー南部	2009. 07.01	2009.12.31 (2本除く)	UNHCR
6	コミュニティーアクセス (木造歩行橋 10本)	マウンドー、 プティドン	2009. 07.01	2009. 12.31	UNHCR



### (3) コミュニティー社会開発事業(CSDP)

【資金：三井住友銀行ボランティア基金、WFP(国連世界食糧計画)、UNHCR、自己資金】

イスラム系住民のなかでも、さらに社会的に低い立場にある女性たちは、学ぶ機会や働く場に恵まれていません。BAJは、1998年から女性を対象に裁縫訓練コースを開始して、最初にインストラクターを育成しました。現在では彼女たちが中心になって村に入り、裁縫をはじめ識字や保健衛生の知識を普及させ、収入向上と生活改善の活動を進めています。

2009年はUNHCRやWFP、国際NGOと協力して以下の活動を進めました。

- 1 基礎衛生に関するワークショップ/10か村で500名の子どもたちを対象に実施。
- 2 “気づき”に基づく基本生活習慣トレーニングプログラム/計2回7か村で50名を対象に識字や裁縫、家族の健康と情報の共有を実施。
- 3 はた織り技術訓練コース/ BAJワークショップで計2回40名を対象に実施。
- 4 トイレの使用に関する意識向上ワークショップ/アウンヤン村総合開発で、各家庭に設置したトイレの使用について、衛生知識の普及を目的に村内でワークショップを20回開催。
- 5 裁縫教室/栄養改善プロジェクト(ACF)の受益者を対象に裁縫教室を実施。
- 6 サンレイズプロジェクト/マウンダー周辺の2か村で高齢者や障害者に対し、介護活動や生活物資の供与を行い、村のボランティアを育成。



手縫いの訓練は、女性たちにとって収入向上につながる良い機会となる



サンレイズプロジェクト事業地を訪れる根本

### (4) ラカイン州シトウェ地域開発事業

【資金：GGA】

ラティドんに建設したアウンゼイゴン歩行橋が3月に完成し、完成式典が開催されました。この事業では2本の歩行橋とアプローチ道路、2本のカルバートを建設しました。



## 2 中央乾燥地域における生活用水供給事業

1999年より開始した事業で、2009年2月には「井戸建設100本記念式典」をポンター村で開催し、駐ミャンマー日本大使をはじめ、ドナーであるワタベウェディング(株)会長やカウンターパートである国境地域民族開発省開発局(DDA)副局長など関係者300人以上が出席し、盛大な式典を行いました。



井戸完成100本記念式典で、渡部会長とともにテープカット

### (1) 新規深井戸掘削事業

【資金：日本NGO連携無償資金協力、GGA、ワタベウェディング(株)】

2009年は6本の井戸建設を予定していましたが、村との調整などに時間がかかり、掘削を開始したものの岩盤に突き当たるなどの障害もあって、完成できたのは3本に留まりました。

また、掘削機ワタベ号も3年経過しており、オーバーホールが必要となっています。

2009年に完成した井戸は以下の通りです。

No	管区・郡名	村名	工事期間	資金
1	マグウェ管区 チャウ郡	ニャンピンサン村	2009.2.25 ~ 2009.5.23	日本NGO 連携無償資金協力
2	マンダレー管区 ニャンウー郡	シンメイン村	2009.7.18 ~ 2009.10.15	ワタベ ウェディング(株)
3	マグウェ管区 チャウ郡	タヤゴン村	2009.11.22 ~	日本NGO 連携無償資金協力



新しく完成した井戸には、早速バケツを持った人々の列ができる

### (2) 既存深井戸の修繕事業

【資金：日本NGO連携無償資金協力、ワタベウェディング(株)、自己資金】

井戸修繕の要望は年々増えており、2009年は資金が得られた30か村(約28,000人)と要請のあった43か村について、BAJの修繕チームが対応しました。修繕事業のためには、井戸の正確なデータの記録と分析が大切で、そのための村の体制づくりと、必要なパーツを生産できるワークショップの技術向上が課題となっています。

### (3) 井戸の長期維持管理支援事業

【資金：日本NGO連携無償資金協力、ワタベウェディング(株)、TOTO水環境基金】

2009年も引き続き、村の水管理委員会やエンジンオペレーターを対象に、井戸の維持管理に必要な技術や運営方法の研修を8回行い、のべ60か村235名が参加しました。そのために必要なマニュアルの整備やBAJスタッフの研修を進めました。



井戸の料金帳簿を確認する井戸管理委員会のメンバー



#### (4) ローカルメンテナンスチームの育成

【資金：ワタベウェディング㈱、自己資金、他】



真剣に講習に聞き入るローカルメンテナンスチームのメンバーたち

BAJはこれまで井戸建設を行った村で、エンジンオペレーターを対象に技術研修を行ってきていますが、そのなかで意欲のあるメンバーを選んでローカルメンテナンスチームを組織し、支援しています。2009年は修繕に必要な大型三脚の改造に始まり、村からの注文を受けて、のべ52回出動し、エンジン修理、ポンプの設置、点検作業などメンテナンスと修繕を行いました。

今後はチームの技術向上を図りながら、この地域全体の水供給状況の改善を目指して、チームの自立を進めていきます。

#### (5) 学校建設事業

【資金：個人寄付】

この地域で実施してきた水供給事業のほかに開発プログラムの一環として、要望の多い学校の建設を開始しました。第1校目は、11月後半からモンダイン村で開始し、2010年3月に完成予定です。第2校目は2010年6月に建設を開始する予定です。

#### (6) その他の事業

【資金：村、DDA(ミャンマー国境地域民族開発省開発局)】

村やカウンターパートであるDDA(開発局)からさまざまな要請が来ています。井戸建設の依頼は多く、BAJでは優先順位を特定したリストを作成して順次対応しています。そのほかに、井戸の修繕、揚水ポンプ設置、地下水調査、水質検査、電気検層、井戸洗浄、パイプライン建設など多岐にわたる要請があります。

また地域も拡大していますが、BAJは可能な限り対応し、2009年の件数は150件以上にのぼりました。





### 3 南東国境事業

【資金：UNHCR】

UNHCRからの要請で2004年から開始した、タイとの南東国境の2000キロにおよぶ一帯で、BAJは3か所の事務所を設置して水供給事業を実施しています。2009年は32か所に水供給施設を完成させ、また南部タニンダリ管区では国内紛争による避難民の村で、150棟の住宅を建設しました。

水供給事業では、パイプ敷設による供給など、水質の良い水を供給するための工夫をしました。



鉄分の多い井戸水を採取してチェックする



村の古い井戸は乾季に涸れてしまう

#### (1) 給水施設建設と地下水調査

##### 1 給水施設建設

給水施設の種類	カレン州北部	カレン州南部	モン州	タニンダリ管区	計
管井戸 (Tube well)	0	4	7	6	17
開放井戸 (Open dug well)	0	3	5	3	11
パイプライン給水システム	3	0	0	1	4
計	10		12	10	32

##### 2 地下水脈調査(GP調査)

水が得られる帯水層の位置を調べるため、2009年は41か所でGP調査を実施しました。

##### 3 井戸の修繕

過去に実施してきた事業地を対象に、揚水ポンプの入れ替えや、部品交換、井戸洗浄を15か所で実施しました。

##### 4 掘削機械の導入

井戸掘削の効率化のため2008年からタイ製掘削機の導入を進めていましたが、輸入許可が出てようやく導入できました。2010年に試験掘削をモーラミヤイン市内の病院施設内で行いました。





## (2) 井戸の維持管理と衛生知識の講習

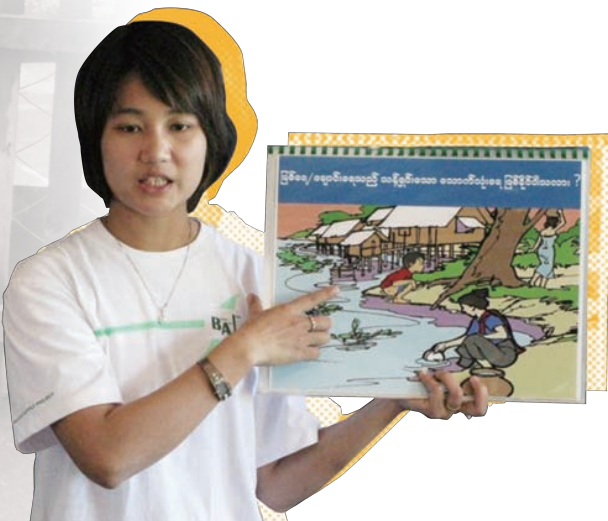


ポンプについての知識も、井戸の維持管理をする上で重要となる



講習を通して、住民たちの意識も変化する

BAJでは井戸を設置した村の住民を対象に、井戸施設(ポンプ)維持管理のための点検マニュアル、修理のための基本ツールボックスと、衛生知識のポスターやパンフレットと石けんや爪切りなどを用意して、カレン州とモン州の29か所の村で講習会を実施しました。



## (3) 避難民村の簡易住宅建設

南部タニンダリ管区では国内紛争の影響でタイ側に流出した難民も大勢いますが、国内の各地に避難した少数民族も多くいます。とくに国内避難民の多い14か村で、UNHCRの資金により150棟の簡易な住宅を建設しました。

## (4) 水質についての講習実施

BAJ事業地で掘削した井戸水からヒ素が検出されており、村人と相談しながら除去設備の建設や、設備の維持管理に関する話し合いを行いました。課題となっている水質の問題については、東京事務所所属の水理地質が専門である高橋麻子を講師として、南東国境事業地のスタッフとサイクロン被災地域のスタッフ18名を対象に、ヒ素の生成メカニズム、健康被害、バングラデシュの事例、除去方法などについてセミナーを開催しました。



ヒ素を含んだ井戸水対策のため、ヒ素研修を行う高橋(右)



水質検査キットを使って井戸水をチェック

## 4 サイクロン被災地域復興支援事業

2008年5月2日から3日の未明にかけてミャンマー南部デルタ地帯に襲来したサイクロン「ナルギス」の被災地では、緊急救援から始まって、モバイル・ワークショップと学校修繕の活動を実施してきました。

2009年は学校校舎の修復・再建を集中的に行い、2009年末までに約60校、約12,000人の児童・生徒が安心して学校へ通えるようになりました。

### (1) 学校再建・修繕事業

【 資金：ブラン・インターナショナル、サイクロン緊急救援支援寄付金、日本 NGO 連携無償資金協力 】

BAJはデルタ地域のサイクロン被災地であるエヤワディ管区モールマインジュン地区で事業を実施しました。2008年5月末～11月末を第1フェーズ(28校)、12月～2009年7月までを第2フェーズ(17校)、8月～2010年5月までを第3フェーズ(9校)としてブラン・インターナショナル等の資金で、また日本NGO支援無償資金協力で3校、日本からの緊急救援寄付で3校の修復・再建を進めてきました。



学校再建には現地の住民も参加する



緊急時に屋上に避難できるように建設したチェッシャー小学校には、多くの人が視察に来た



ビデオ教材を使ってサイクロンのメカニズムについて学ぶ



現地の教師たちに映像を見せながら意見交換

### (2) 防災教育事業

【資金：ブラン・インターナショナル】

これまでにBAJが修復・再建した学校の教師の方々と話し合いを持ったところ、「サイクロン被災の経験から、もっと自分たちの村のことを考え、地形や歴史、サイクロンの仕組みなどを学び、災害に備えたい」という希望がありました。BAJでは修復・再建をした学校のなかから20か村を選び、防災教育のプログラムとして各村で2日間の授業を2回実施しました。

防災教育では、子どもたちや地域の住民を対象に、教師を協力者として村を訪問し、日本の教材なども利用して災害の仕組みや地域の歴史などを調べます。目標は、「防災の必要性について認識する」「自分たちに何ができるのか考える」「ここで学んだことを家族や地域の人たちに伝えていく」「地域の協力やリーダーシップについて考える」ことを掲げています。





## ベトナムの概況

めざましい経済成長を遂げる一方で、都市部への人口集中と同時に、地方から若い人たちが流出し、地方経済の停滞、農業の衰退などの動きが止まりません。都市部では貧富の格差がますます拡大し、貧困地域で取りのこされている人たちが大勢います。

BAJは昨年に引き続き、貧困地域での生活改善事業、環境教育事業を継続して実施しました。



トラクターを使って畑を耕すアジ子

## ベトナムのプロジェクトマップ

ホーチミン市アンカイン地区では、政府の再開発事業が進み、2009年夏以降に住民の半数以上が移転用に用意された住宅のあるタインミーロイ地区などに移転しました。移転先では、アンカイン地区出身の子どもたちが中心になってゴミの分別回収を始めました。アンカイン地区以外の子どもたちには、お絵描きや武術クラスを開いて、ゴミ分別活動への参加を呼びかけました。

フエ市では、子どもたちの環境グループが地域で環境活動を継続しており、フエ伝統工芸フェスティバルへの出展や、エコッキング大会の開催、中秋の名月の龍舞による啓発活動などイベントも盛りだくさんでした。また子どもたちを主役にした環境ワークショップを3回開催し、ホーチミン市、クイニョン市、フエ市の子どもたちが環境活動の経験発表や情報交換を行いました。



船の上でお絵かき



ゴミ分別をして地域の環境改善にとりくんでいる



# ベトナム2009年度事業報告 (2009年1月~12月)

## 1 ホーチミン市での事業

BAJが活動を実施してきたアンカイン地区の移転が急速に進み、その結果多くの子どもたちが転居していますが、子どもたちが中心になって新しい地域でゴミ分別収集を始めています。

また、都市部の子どもたちが放課後の時間を使って楽しく工作や科学の実験をする「ばじこ教室」が12月より試験的に始まりました。

### (1) 障害児者支援事業

【資金：輝けアジアの子ども基金】

ホーチミン市郊外にあるティエンアン盲学校に対し奨学金として、2009年は5月、8月、11月に「輝けアジアの子ども基金」を授与しました。奨学金は盲学校生徒の学費や活動に活用されるほか、生徒のなかでマッサージルームを開設した運営資金としても活用されました。



生徒たちが点字の本を読んだりコンピュータを勉強したりする部屋



日本語クラスの子どもたちとティエンアン盲学校の生徒たちとの交流

## (2) アンカイン地区生活改善事業

【資金：キャノン(株)、輝けアジアの子ども基金】

### 1 マイクロクレジットと貯金活動

貯金グループ「将来のためにチーム」は2009年12月まで貯金活動を継続していましたが、タインミーロイ地区等への移転によりやむなく貯金を精算して活動を休止しました。



### 2 ごみ分別収集活動

アンカインでは、子どもたちの半数以上が移転したため、残っている数人で毎週火曜日に約30世帯のゴミ分別収集を行っていますが、2009年夏からは移転先のタインミーロイ地区でアンカインの子どもたちが中心になって毎週土曜日に27世帯のゴミ分別回収活動を開始しました。

### 3 補習クラスの運営と奨学金の授与

移転により、「アジ子博士」によるネットを使った通信添削は、2009年5月まで、またアンカイン地区内で実施していた「補習クラス」は8月まで継続して終了しました。「輝けアジアの子ども基金」からの奨学金として、アンカイン地区では2009年は32名に授与しました。



インターネットを使った通信授業を受けるアンカイン地区の子どもたち



### (3) 環境教育活動

【資金：キャノン株、輝けアジアの子ども基金】

政府の移転事業により多くの子どもたちが転出しましたが、まだ残っている子どもたちは引き続き環境改善活動を継続しています。また、移転先のタインミーロイ地区でも、子どもたちが中心となってゴミ分別活動を開始しました。

#### 1 ゴミ分別活動

1月から12月までのゴミ分別活動による売却額の推移は以下の通りでした。

◇2009年中のゴミ分別活動による売却額(VND※)

月	1月	2月	3月
アンカイン地区	60,500	46,000	36,500
タインミーロイ地区	—	—	—
月	4月	5月	6月※※
アンカイン地区	16,000	57,000	0
タインミーロイ地区	—	—	—
月	7月※※	8月※※	9月
アンカイン地区	0	0	9,000
タインミーロイ地区	—	— ※※※	— ※※※
月	10月	11月	12月
アンカイン地区	9,000	5,800	17,700
タインミーロイ地区	53,200	57,500	104,000
合計	アンカイン地区	257,500	
	タインミーロイ地区	214,700	

※1 日本円 = 202.437 VND(ベトナムドン) (2009年12月31日現在)

※※ アンカイン地区は移転作業のため収集量が少なく、売却しなかった

※※※ タインミーロイ地区での分別活動は8月から開始したが、最初は分別への協力の呼びかけが主だったため、回収した資源ゴミの売却が始まったのは10月から

#### 2 絵画クラス

身の回りにある水の問題や季節行事などをテーマに、子どもたちが絵を描きました。



地域の絵を書いて、自分たちの住んでいる地域を考える

### 3

#### 情報交換・情報発信

フエとクイニョンの環境活動グループの子どもたちが、ゴミ分別や環境改善などの活動について、インターネットのチャットを使って情報や意見の交換をしました。

### (4) 中学校での環境教育事業

【資金：三井物産環境基金】



エコクッキング大会のあと、揚げ物を調理した残りの油で廃油石けんを作る

ホーチミン市第10区人民委員会教育部に協力し、区内のグエンヴァントー中学校で「環境問題と日本語」の授業を毎週土曜日に行いました。

2009年度は、水やゴミをテーマに校内の排水について調べ、校内や学校周辺地域にむけた活動を開始しました。都市部では地域とのつながりが希薄になってきており、学校を核として周辺地域への関心を高めていく活動を進めています。

9月には、校内で保護者も参加して「エコクッキング大会」を開催し、残った油を使って石けん作りをしました。





### (5)ばじこ教室の開設

【資金：武田資金 他】

都市部で生活する子どもたちが、放課後の時間を楽しく過ごしながら、生活に結びついた知識や経験を育てる目的で、子ども教室(ばじこ教室)の設置を決め、2009年9月から準備を進めました。場所の選定、内装、カリキュラムなどを検討しながら進めた結果、12月に広報を行い試験的に教室をスタートさせました。

将来は、日本からのボランティアと子どもたちが交流できるような場とすることを計画しています。

現在の各クラスの時間割と内容は以下の通りです。



みんなで楽しく科学の実験

	火	水	木	金	土
日本語による授業	18:00-20:00(工作7名)		18:00-20:00(科学7名)		
ベトナム語による授業	17:00-18:30(科学9名)	18:30-20:00(科学9名)	17:00-18:30(工作13名) 19:00-20:30(工作8名)	18:30-20:00(工作9名)	17:00-18:30(科学17名)





## 2 フェ市生活改善事業

【資金：(株)INAX、国際ボランティア貯金助成金、The Body Shop、三井物産環境基金、輝けアジアの子ども基金】

2002年からフェ市人民委員会やフービン地区とフオンロン地区の人民委員会と協働して環境改善のための活動を継続しています。2009年度はとくに、ホーチミン市アンカイン地区とフェ市フービン地区の移転が本格化したため、移転先での環境改善活動を開始しています。

### (1) 教育支援事業と奨学金授与

小学生・中学生を対象に学校の授業の補習クラスと、「アジア博士」のネットによる通信添削を引き続き実施しました。「輝けアジアの子ども基金」からフービン地区37名の子どもたちに奨学金を授与し、そのなかの15名がホーチミン市で実施した夏休みのBAJ合宿に参加し、ホーチミン市の子どもたちと一緒に勉強や環境活動を行いました。

### (2) 環境教育活動

生ゴミのたい肥化から始まった野菜作りは、地元農家を巻き込んでフービン地区、フオンロン地区、トゥイビエウ地区の子どもたちと一緒に、「環境を守る・地域を知る」というテーマで活動しました。また、他都市の子どもたちとは、インターネットを通じた情報交換を行いました。

主な活動は以下の通りです。



ゴミ箱設置のため、市場の大人たちにも働きかける

### 1 資源ゴミ回収と生ゴミのたい肥化、環境改善

パン工房地域の環境改善として排水の汚染調査を実施し、簡易浄化槽設置のために住民を対象に子どもたちが説明会を開催して賛同をもらい、2月には浄化槽を実際に取り付け、生活排水が直接川に流れ込まないようにしました。

### 2 フオンロン市場の衛生改善

子どもたちによる市場のゴミ調査でゴミ箱が足りないことが分かり、ゴミ箱を作って各店舗に配布しました。また、ゴミ削減のためエコバッグを作り、お客さんに子どもたちが説明しながらバッグを配布しました。

### 3 地域の川のゴミ調査と生き物調査

フオンロン地区の農園では、たい肥で育てたトムロコシ、からし菜、香草などを栽培しました。また、たい肥を近郊の農家に利用してもらい、有機栽培による古代米が収穫できました。子どもたちは農作業のお手伝いをしました。

### 4 6月の「フェ伝統工芸フェスティバル」に出展

子どもたちが中心となって、地域の環境活動の写真や絵、伝統的な農機具を展示して紹介しました。

### 5 沼の水質改善と地域内の水路清掃

フオンロン地区ソムバウ地域にある沼はバックイエン川と水路でつながっていましたが、ゴミ投棄で水路が機能なくなり、沼が汚染されて問題になっていました。子どもたちが調査して住民と話し合った結果、BAJが清掃に必要な道具を提供して住民が水路の整備を行いました。

### 6 エコクッキング大会と廃油の石けん作り

フービン地区内の5か所(住民16人参加)とフオンロン地区3か所(住民16人参加)でエコクッキング大会を実施しました。参加者は市場やスーパーで材料を買い出し、調理後にビニール袋のゴミ量を測り、ゴミの減量を説明しました。また調理で使った油で石けんを作ったり、油を排水溝に直接捨てないように呼びかけました。

### 7 中秋の名月祭りで環境啓発活動

10月3日の祭りで、フービンとフオンロンの子どもたち34名が、地域で龍舞を披露しながら、環境啓発のピラを配布し、ゴミ分別やマイバッグの利用などを呼びかけました。

**(3) その他の活動**

3月にフービン地区の水上生活地域と王宮城壁沿い地域に家庭用電気の配電装置を設置し、また街灯を両地域あわせて20か所に設置して通路を整備し、安全に



大学生ボランティアと協力した農家での聞き取り活動

通行できるようにしました。さらにコミュニティ情報室を建設し、健康や環境関連の資料をそろえたことで、住民の会議室として利用できるようになりました。

4月から12月にかけてトゥイビエウ地区の農家を対象に、たい肥を利用する農業を進めるための会議を毎月1回以上開催し、農家11世帯が参加しました。また、地域特産のザボン販売促進のためのチラシ配布やネット上での宣伝活動をサポートしました。

**3 クイニョン市環境教育事業**

【資金：三井物産環境基金】

2005年の「住民参加型生活環境改善事業」をきっかけにクイニョン市で環境改善の事業を開始していますが、2009年はニョンビン地区で、環境活動をテーマとしたお絵かきクラス、ゴミ分別活動、ネットを使った他地域の子もたちとの情報交換などの環境教育活動を実施しました。

6月には住民会議を開催して、子どもたちが進めてきたゴミ分別活動や絵などを紹介しながら、これまでの活動を発表しました。







## 東京本部の概況

BAJの創設者であり、運営の中心であった事務局長の新石正弘の死去(1月29日)に伴い、「お別れの会」(2月29日)を開催し、また、遺稿集をまとめて6月中旬に『アジアに架ける橋』(コモンズ/1700円)を出版しました。

東京事務所を中心に、新たな事務局の態勢作りを進めるとともに、各事業地での中期計画立案のための会議を継続して実施し、BAJの今後の方向性を明らかにして共有することに努力しました。

# 東京本部 2009年度事業報告 (2009年1月~12月)

## 1 認定NPOと資金の調達

2007年3月に取得した認定NPO法人格更新のための作業を6月より進め、9月に国税庁ならびに渋谷税務署に延長申請を行った結果、2010年3月1日から2014年2月末までの5年間について延長が承認されました。このことを基本に、新たなドナーの開拓を進めるという方針のもと、パンフレットやBAJ通信など広報資料を刷新し、とくに税制優遇のある認定団体であることをアピールしました。

2009年も、さまざまな企業からの寄付を募り、財団や機関の助成金や補助金を申請し、また公的資金のスキームを使って資金確保に努め、2008年と同様の資金を達成しました。

### (1) 資金の調達

2009年度のプロジェクト地域ごとの主な調達先は右記の通りです。個人寄付については個人情報の観点から割愛させていただきます。(順不同・敬称略)



作ったばかりの募金箱を持つボランティア青木さん

ミャンマー	外務省・日本NGO連携無償資金協力(NAG)、JICA技術協力プロジェクト、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)、国連世界食糧計画(WFP)、ワタベウエディング㈱、三井住友銀行ボランティア基金、TOTO(株)水環境基金、(株)ローソンパスポイントプログラム社会貢献コース、在ミャンマー日本大使館草の根無償資金、プラン・インターナショナル、エファジャパン、ブリッジヤーズ(有)、キャップの貯金箱推進ネットワーク
ベトナム	外務省・日本NGO連携無償資金協力(NAG)、国際ボランティア貯金、(株)INAX、三井物産(株)環境基金、キャン(株)、輝けアジアの子ども基金、武田資金
BAJ(全体)	(株)ピロタス、(特活)ケアセンターやわらぎ、(特活)ミャンマー総合研究所、(株)ダイナックス、(株)ピースインツアー、国際航空(株)、(有)アルスコオペレーション、岐阜ロータリークラブ、城西国際大学、(株)日本開発サービス、WAVE、静岡日本語教育センター、(株)エヌエルシー、ワタベウエディング㈱、(株)ソーワコンサルタント、(有)峰秀興業、NECファシリティーズ㈱、(株)大木組、アセットマネジメントコンサルティング㈱、ブリッジヤーズ(有)、清原基金、武田資金、Earth Light、化工機プラント環境エンジニア(株)、富士ゼロックス端数倶楽部・富士ゼロックス(株)

## (2) 寄付・募金の拡大

2009年度は、個人からの大口寄付やサイクロン被災地域救援募金(繰越分)などにより、寄付金総額は総収入の48%を超えて当初の目標額を大幅に上回ることができました。ただし、今後の課題として、減少傾向にある新規会員やアジ子・まるごとのサポーターを拡大していく努力が必要となっています。

2009年度に皆様からお寄せいただいた寄付金の指定別金額は以下の通りです。

	BAJ寄付	まるごと	ミャンマー
国内	30,975,326	843,284	27,128,616
海外	0	0	3,543,296
計	30,975,326	843,284	30,671,912

	ベトナム	ミャンマーサイクロン・竜巻	合計
国内	9,568,910	73,544,191	142,060,327
海外	562,079	163,631	4,269,006
計	10,130,989	73,707,822	146,329,333

活動は皆様からの寄付や会費で賄われています。より多くの方に活動を知っていただき、支援の輪を広げていくことが国内活動の大きな目標です。BAJでは、議決権のある会員制度のほかに、気軽に参加できるサポーター制度を用意しています。ご予算にあわせて毎月の寄付金額を、指定された口座から自動引き落としとできます。また2010年7月からは、BAJのホームページからクレジットカードによる決済が可能となります。

### 1

#### 輝けアジアの子ども基金

ベトナムの貧困地域の子どもたちを対象にした活動のための基金です。2009年度は視覚障害児者17名、ホーチミン市アンカイン地区児童32名、フエ市フービン地区児童37名、合計86名に奨学金を授与しました。毎月2000円(1口)からの寄付を受け付けています。

### 2

#### BAJまるごとサポーター

事業を特に指定しないで、BAJが行う活動全体を支援していただく寄付制度です。災害時の緊急救援や、事業のつなぎ資金、管理部門の資金として活用させていただきます。毎月1000円(1口)からの定額寄付を受け付けています。

### 3

#### その他

随時の寄付として、事業指定のない「BAJ寄付」、ミャンマー事業指定では「水募金」「女性の生活改善」と、ベトナム事業指定の「子どもの夢応援」「障害児者支援」などがあります。

このほかに災害時の緊急救援募金、さらに夏と冬の3か月間にわたって「夏募金」「お年玉募金」として、テーマを決めて寄付をお願いしています。

## 2

### 広報活動

より多くの方々にBAJの活動を理解していただき、ボランティアや寄付などで協力いただくことは、NPO団体の大切な使命であると考えています。とくに活動を知っていただくための広報事業は、安定した組織運営の上で大きな役割を担っています。

BAJは、事業の透明性の観点からも、広報活動に力を入れていきます。

#### (1) 情報発信

### 1

BAJの活動を隔月で報告する『BAJ通信』(A4判・8ページ、1500部)を、2009年度は84号~89号まで計6回発行しました。また、88号(2009年9・10月)からリニューアルを行い、フルカラーになりました。

### 2

#### ホームページ・BAJメールマガジン・駐在員ブログ

ホームページはBAJの顔となる大切な広報手段です。読みやすさ、親しみやすさを意識して2009年6月1日にリニューアルしました。

BAJメールマガジンは、2009年度は39号~57号の計19回発行し、報告会開催通知やお知らせなどを読者489名(2009年12月31日)に配信しました。ホームページにリンクした駐在員のブログや東京事務所ブログは、BAJ活動現地や事務所の様子がよくわかると好評なので、可能な限り継続していきます。

#### (2) 活動の広報

BAJ職員による講演・講義、事業報告会を開催して活動を紹介するとともに、さまざまな形で実施されるイベントにも積極的に参加して、物販や展示などでBAJの活動広報に努めました。主なものは次の通りです。



## 1 報告会・講演・交流会など

1月8日	千葉県「認定NPO取得に向けて」	根本	千葉県文書館
2月18日	開発教育 in 都立松原高等学校	宗野	杉並区立松原高校
2月20日	NGO能力強化支援制度・名古屋説明会	宗野	名古屋NPOセンター
2月29日	故・新石正弘「お別れの会」		杉並区ヴァンティホール
3月5日	ベトナム活動報告会	片山・トエ	BAJ事務所
3月7日	ミャンマー水供給事業報告 ローカルメンテナンsteam育成	森	渋谷区勤労福祉会館
4月19日	来日研修交流会「ミャンマー☆ランチパーティー」	森他	高田馬場 ミンガラバー
	ミャンマー事業報告会 in 鹿沼	平田さん	栃木鹿沼市民情報センター
4月20日	栃木県佐野女子高等学校・交流会	平田さん	佐野女子高校
4月23日	ミャンマースタッフ来日研修・報告会	マニョ他	BAJ事務所
5月15日	ミャンマー・サイクロン復興支援活動報告会	エーコーウィン	JICA地球ひろば
7月14日	ベトナム・子どもたちと日本の子どもたち交流会	フィ・ルイット	新宿区市谷小学校
7月21日	浜っ子トラスト 水の大切さを考える体験学習	森	TOTO茅ヶ崎工場
7月24日	長野県富士見小学校 水の大切さを考える体験学習	森	長野県富士見小学校
7月27日	ベトナム・子どもたちの報告と交流会	フィ・ルイット	BAJ事務所
8月11日 ～16日	「水は金より重い」 BAJミャンマー水供給事業 写真展		JICA地球ひろば
8月29日	料理交流会「We Love ベトナム料理」		池袋消費生活センター
9月28日	ベトナムインターン青山さん報告会	青山さん	BAJ事務所
10月9日	新宿ジュンク堂「平和の棚・ トークセッション」アジアに架ける橋	根本	東京新宿・ジュンク堂
11月 18・19日	JICA地域別基礎研修・講師	高橋	JICA地球ひろば
11月19日	NGOと農水省の意見交換会 BAJ活動紹介	根本	農水省
11月26日	JICA効果検証プログラム フィリピン報告会	森	外務省
12月5日	BAJ交流会		神宮前区民会館
12月11日	JICA技術協力プロジェクト報告会	木村	JICA地球ひろば
12月14日	東京外語大学講演 「国際協力を仕事にする～NGOで働く」	森	東京外語大学
12月15日	愛媛大学講演「BAJのミャンマーでの活動」	束村	愛媛大学
12月14日	東洋大学講義 「共生社会構築に向けた子どものエン パワーメントを通じた地域社会開発」	大津	東洋大学



BAJ料理交流会で



活動報告会で真剣な討議

## 2 イベントへの出展

2月21日	東京都新宿区「町の先生見本市」・VN子どもたちの活動展示	新宿区立四谷小学校
4月12日	栃木県宇都宮「My Festa」出展	宇都宮市体育館
6月6日	ホテルアイビス「アジア・アフリカフェア」 展示販売	東京六本木・ホテルアイビス
6月14日	BFJ「ダン・タイソン・チャリティーコンサート」	渋谷表参道カワイパウゼ
6月20日	UNHCR難民の日 展示販売	青山・国連大学
6月21日	ダンスイベント「アースライト」 展示販売	新宿・ビッグピンクビッグ
	アセアン農村プラザ 展示販売	有楽町・東京国際フォーラム
7月4日	化工機プラント環境エンジニア創立10周年 展示販売	東京ベイホテル(舞浜)
7月7日	ワタベウェディング株式会社大会 プレゼン・展示販売	東京・目黒雅叙園
8月20日	三菱商事(株)チャリティーバザー 展示販売	三菱商事丸の内本社
8月27日	三菱商事(株)チャリティーバザー 展示販売	三菱商事パークビル
10月3・4日	外務省「グローバルフェスタ2009」展示販売	東京・日比谷公園
11月15日	栃木県 鹿沼ワールドフェスティバル 展示販売	鹿沼商工会議所
11月29日	世田谷早朝ダンスグループイベント「ダンスナウ」活動紹介	世田谷区多摩川中学校講堂
12月14日	三菱商事(株)チャリティーバザー	三菱商事丸の内本社
12月16日	三菱商事(株)チャリティーバザー	三菱商事丸の内パークビル
12月19日	渋谷ピース祭 展示販売	渋谷・代々木公園
	府中市青少年対策委員会「作文発表大会」	府中市・生涯学習センター



グローバルフェスタで、BAJ恒例の水桶体験

3

出版・新聞・雑誌・マスコミ

ミャンマーの事業開始のことなど貴重なBAJの記録でもある故・新石正弘の遺稿集『アジアに架ける橋』を6月17日に出版(コモンズ/1700円)しました。

新聞や雑誌、テレビなどでBAJの活動が紹介されたのは以下の通りです。

2009年1月号	ベトナム・トイチェー新聞	BAJ活動紹介、新石のフエ市名誉市民賞受賞
2月2日	ベトナム・トイチェー新聞	新石死去の記事
3月	つな環・第14号	BAJベトナムとINAX社との共同事業紹介
4月11日	下野新聞	海外支援現場の声・NPO法人の活動報告会
4月21日	下野新聞	ボタンと料理で交流・ミャンマー女性が訪問・佐野女子高等学校
4月23日	下野新聞	ミャンマーの国情など紹介・BAJが報告会
4月	外務省ODA白書	コラム・幸福を呼ぶ井戸 ミャンマー
4月30日	NHK TV BS1	アジアクロスロード サイクロンから1年/道傳解説委員
5月3日	NHK TV 第1	海外ネットワーク サイクロン被災から1年
6月号	ボランティア 6月号	ミャンマー サイクロン緊急救援募金案内
6月1日	ベトナム・トイチェー新聞	VNこどもの日にBAJアジ子たちがワークショップ開催
6月28日	朝日新聞 朝刊	読書欄・書評『アジアに架ける橋』新石正弘著
6月29日	島根日日新聞 朝刊	読書欄・書評『アジアに架ける橋』新石正弘著
7月23日	神奈川新聞 朝刊	水運び体験で世界事情を知る 茅ヶ崎の子どもたち学習会
7月26日	長野日報	水の尊さを実感 ミャンマーの生活学ぶ 富士見小
7月29日	山陰中央新聞	いわみワイド・ベトナム中学生農業を学ぶ
8月号	国際協力新聞NEWS 179号	世界で活躍する日本のNGO/日本NGO連携無償資金協力
8月号	TOTO CORPORATE REPORT	社会に奉仕する・水と環境について考える
8月号	ガバナンス	新刊案内『アジアに架ける橋』新石正弘著
11月6日	ラジオ J-Wave	「東京ユナイテッド」の活動紹介 インタビュー・根本

4

ボランティアやインターン、学生の受入れ

NGOの活動を知っていただくことはNGOの大切な役割であると考え、BAJではボランティアやインターンを受けて入れています。そのために定期的にボランティア説明会を開催して、BAJの活動紹介を行っています。

事務所には毎日ボランティアさんが来られ、さまざまな作業を進めていただいています。また国内と海外でのインターンも受け入れており、期間と目標を決めてBAJでの研修を実施しました。また、事務所訪問を希望する中学生から大学生の受け入れも行っており、事前に質問のアンケートをとったり、水桶体験を織り込んで興味を持ってもらうように工夫しました。2009年は5校、計18名を受け入れ、BAJの活動紹介をしました。



ベトナムのインターンの新見さんと遊ぶ子どもたち

3 スタッフの育成

国際協力分野で活躍する人材の育成は、日本の国際貢献にとって大切なことだと考え、BAJでは職員のスキルアップと情報収集のために、さまざまな機会をとらえて研修やセミナーに参加しました。2009年は以下の通りです。

1月7日	災害即応パートナー勉強会	宗野	ADRA
1月26・27日	神戸市防災セミナー「防災と環境」	束村	神戸市
2月10日	(株)JALUX CSR報告会	束村	(株)JALUX
3月10日	災害即応パートナー勉強会	宗野	ADRA
3月13日	JICA-NGO人材育成研修報告会	平井	JICA
5月19~22日	FASID PCM研修	池田	国総研
5月27日	JICA・UNHCR「フィールドワーカーのための安全管理セミナー」	池田	国総研
5月30日	AARサイクロン被災支援活動報告会	大須	東京ウィメンズプラザ
6月16~18日	JICA・NGO人材育成研修	大津・高橋	JICA
6月19日	JICA「次世代リーダー育成フォローアップ研修」	大須	JICA地球ひろば
6月24日	NGO-JICA 協議会	大須	JICA
6月26日	JANIC 総会	大須	東京・早稲田奉仕園
6月29~30日	JICA・NGO人材育成研修	高橋	JICA
7月14日	JICA・NGO人材育成研修	大須	JICA
7月17日	シーズセミナー「認定NPOの会計基準」	大須	東京ウィメンズプラザ



7月21・22日	災害即応パートナー勉強会	高橋	JICA
7月28～30日	FASID PCM研修「モニタリング・評価」	池田	FASID
7月31日	JICA・NGO人材育成研修 勉強会	平井	JICA
9月12日	シーアールエム セミナー	高橋	日本財団
9月15日	JICA・NGO人材育成研修	平井	JICA
9月17日	シビックフォース勉強会	平井	
9月24日	シーズセミナー「どうなる政権交代後のNPO法人税制」	大須	東京ウィメンズプラザ
9月26日	東洋大学「国際厚生事業団の水道分野の国際協力」	木村・高橋	東洋大学
9月30日	BOPIビジネス政策研究会	高橋	
10月9日	駐日ミャンマー大使による講演会	大津	笹川平和財団
10月14日	応用地質セミナー 展示会	高橋	
10月22日	JICA・NGO人材育成研修 企業コンペ	平井・高橋	JICA
	OECD DACピアレビュー	大津	環状パートナーシップオフィス
10月23日	NGOと政府の連携政策に関するNGOの戦略会議	大津	港区民会館
	UNHCR本部資金調達部長との意見交換会	大津	UNHCR事務所
10月26日	シーズ月例報告会	大須	東京ウィメンズプラザ
11月12日	エヌエルシー(株)水戸工場見学	木村・平井	エヌエルシー水戸工場
11月20日	UNHCR高等弁務官との意見交換会	大津	ホテルニューオータニ
11月27日	シーズ月例報告会 「どうなるNGOの税制」	大須	代々木青少年センター
11月30日	JANICセミナー 「BOPビジネスとCSR」	平井	代々木青少年センター
12月3日	シーズ・ファンドレイズネット立ち上げに関する意見交換会	平井	



アドバイザー派遣により、職員の研修を実施

## 4 海外プログラムの支援

事業を進めていくうえで、必要な専門家や資機材を速やかに活動現場に提供し、また必要な資金を調達するために、企業や機関に対して申請書の作成や調整が必要です。また事業実施中のモニタリングや完了後の報告書の提出など、現地と東京はつねに連絡を取りながら進めています。

### (1) 招へいと派遣

現地の活動で必要と判断した課題について、専門家を派遣して指導していただいたり、現地スタッフを日本へ招へいして研修を行ったりしました。

2009年度に実施した派遣と招へいは以下の通りです。

(敬称略)

1月15日～29日	篠田健一	テクニカルアドバイザー	ミャンマー南東国境地域での技術指導
1月24日～2月19日	原典子	元JICA専門調査員	ミャンマー国内会計システム構築調査
2月12日～18日	束村康文	BAJミャンマー国代表	ミャンマー技プロ3年次 総括2
3月16日～21日	中村孝幸	愛媛大学教授・防災構築	ミャンマー・デルタ地帯学校修復地域
4月9日～24日(招へい)	ララティン インインミョウ ラインビューミン	ミャンマー・マウンズスタッフ ミャンマー・ヤンゴンスタッフ ミャンマー・チャウバドスタッフ	武蔵野水道局、プラン・ジャパン、ネパリバザール、鹿沼市、パレット、ワタベウェディング様、やわらぎ他
5月3日～6月17日	木村信夫	BAJ技術部長	ミャンマー技プロ4年次前半 物理探査
5月12日～22日(招へい)	エーコーウィン	ミャンマー・モアマインジュン シニアスタッフ	バルシステム、プラン・ジャパン、西本願寺、ワタベウェディング様他
7月13日～31日(招へい)	ファイ ルイット リーパークオン	ベトナム・フエ・フービン地区 ベトナム・フエ・フービン地区 ベトナム・フエ市スタッフ	市谷小学校、所沢明峰小学校、豊田市三州足助町、身振県南町、益田市ジュニアクラブ、埼玉興産市農家他
7月31日～9月6日	木村信夫	BAJ技術部長	ミャンマー水供給事業スタッフ研修他
8月3日～8日	高橋麻子	BAJ技術部	バングラデシュ・磁素ネットワーク派遣
9月11日～17日	眞内敏行	東京都テクニカルアドバイザー	ミャンマー・デルタ地帯学校修復地域
10月1日～31日	木村信夫	BAJ技術部長	ミャンマー技プロ4年次 物理探査
10月16日～30日	束村康文	BAJミャンマー国代表	ミャンマー技プロ4年次 総括2
10月20日～2月15日	原田麻里子	広報アドバイザー	東京本部 広報力強化
11月24日～12月8日	森晶子	BAJプログラムマネジャー	フィリピン・外務省効果検証プログラム
12月14日～1月10日	木村信夫	BAJ技術部長	ミャンマー水供給事業スタッフ研修他



ミャンマーから招へいした女性スタッフ3名は、日本でさまざまな施設を訪問した

## (2) 物資の調達

2009年は、ミャンマー政府による手続の規制が強化され、必要な資機材の調達手続きに時間がかかるようになってきました。また、2010年秋の選挙をひかえ、長期滞在のビザ発給など時間をかけても承認されないという事態が発生しています。東京事務所も全力をあげてフォローする努力をしています。



届いたばかりの掘削機部品をひろげる現地スタッフ

## (3) 活動現地の視察

BAJの活動にご支援をいただいている方や関係機関からのご希望があれば、現地での活動視察を実施しています。

2009年度の現地視察の受け入れは以下の通りです。

(敬称略)

2月20日～24日	渡部隆夫、高井郁代	ワタベウエディング(株)	ミャンマー・井戸100本記念式典
3月16日～21日	向後元彦、大野勝弘、他	横浜国大グループ・アクトマン	ミャンマー・デルタ地帯被災地
5月31日～6月6日	大島芳雄	エファジャパン	ミャンマー・デルタ地帯被災地
6月13日～20日	好川正明 他	INAX(株)本社	ベトナム・フエ市、クイニン市
6月25・26日	菊地文雄 他	JICA東南アジア第二部	ミャンマー・ラカイン州北部
8月16日～25日	高塚直子ご一家	BAJ 監事	ミャンマー・中央乾燥地域
9月18日～25日	小出貴信子	ドナー	ミャンマー・中央乾燥地域
11月8日～17日	森 公佑	ドナー	ミャンマー・中央乾燥地域
11月19日	磯崎正名 他	外務省民間援助連携室	ミャンマー・中央乾燥地域
12月20日～23日	三枝隆則 他計4名	国境なき奉仕団	ミャンマー・デルタ地帯

## 5 技術協力事業

BAJの理事であり技術部長の木村信夫を中心として、井戸掘削に関連した物理探査技術による活動を行いました。

### (1) JICA 技術協力プロジェクト

ミャンマーの中央乾燥地域で国際航業株式会社とBAJのジョイントベンチャーで実施してきたJICA技術協力プロジェクトは、2006年11月から開始して2009年11月までの3年間の事業を終了しました。この事業は、①村落の給水施設の建設を通じて技術の向上を図る、②井戸の修繕を通じて技術の向上を図る、③水供給施設の維持管理にかかる技術の習得を図る、という目標で、カウンターパートである開発局(DDA)の技術者約80人を対象に実施しました。BAJからは、日本人専門家として新石正弘と末村康文と、物理探査担当として木村信夫が参加しました。

プロジェクト成果としては、中央乾燥地域に20本以上の井戸を掘削建設して16,000人以上の住民に安全な水を供給できました。さらに40本以上の井戸修繕が行われ、50,000人以上の住民に安全な水を供給できました。また34人以上のDDA職員がこの深井戸掘削と修繕を通じて研修を受けました。維持管理技術という面では、住民用維持管理マニュアル、DDA職員用維持管理とモニタリングのマニュアルを作成し、37人以上のDDA職員が研修を受けました。

住民対象の事業としては、パイロットタウンシップの水管理委員会のリーダーと担当者120人以上を対象に、水供給施設の維持管理にかかわる研修を実施しました。

2009年10月には、ニャンウーとネビドーで最終セミナーが開催され、最終報告書を作成してJICAへ提出しました。



技術協力プロジェクトでの井戸掘削トレーニングの様子



# 名簿・組織図 2010年6月現在

## 職員名簿

### 東京本部

根本 悦子	……………	理事長
大津 祐嗣	……………	事務局長補佐
平井 さつき	……………	海外事業担当
大須 真希	……………	総務・経理担当
高橋 麻子	……………	国内事業担当
沼田 京子	……………	国内事業担当
山木 聡	……………	国内事業担当

### ミャンマー

#### 【ヤンゴン事務所】

束村 康文	……………	ミャンマー駐在代表
森 晶子	……………	シニア・ プログラム・マネジャー

#### 【マウンドー事務所】

池田 武	……………	プログラム・マネジャー
------	-------	-------------

#### 【シトウェ事務所】

#### 【チャウバドン事務所】

#### 【モーラマイン事務所】

#### 【トンゲー事務所】

#### 【モールマインジョン事務所】

### ベトナム

#### 【ホーチミン事務所】

フィン ホワイトエ	……………	連絡員
片山 恵美子	……………	連絡員

#### 【フエ事務所】

#### 【クイニョン連絡事務所】

## BAJ 役員名簿

理事長	根本 悦子	東京都府中市
理事・ミャンマー駐在代表	束村 康文	ミャンマー国ヤンゴン
理事	足立 房夫	東京都文京区
理事	石川 治江	東京都立川市
理事	石橋 富士子	東京都世田谷区
理事	大木 真知子	東京都府中市
理事	鎌田 逸子	東京都府中市
理事	北脇 秀敏	東京都武蔵野市
理事	熊岡 路矢	神奈川県川崎市
理事	西来路 秀彦	東京都小金井市
理事	田中 美知子	東京都練馬区
理事	佃 吉一	東京都板橋区
理事	中西 由起子	東京都八王子市
理事	前川 昌代	東京都渋谷区
理事	松原 明	東京都中野区
理事	簗田 健一	タイ国バンコク
監事	高塚 直子	東京都渋谷区

### 東京組織図



# 2009 年度会計報告

## 収支計算書

(自 2009 年 1 月 1 日～至 2009 年 12 月 31 日)

### 【収入の部】

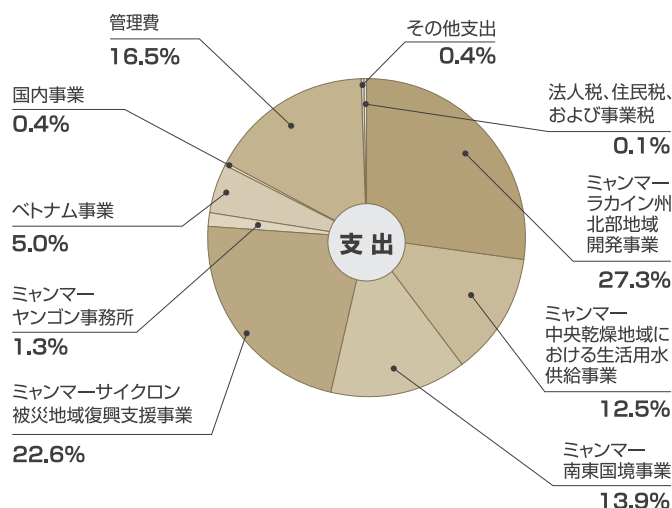
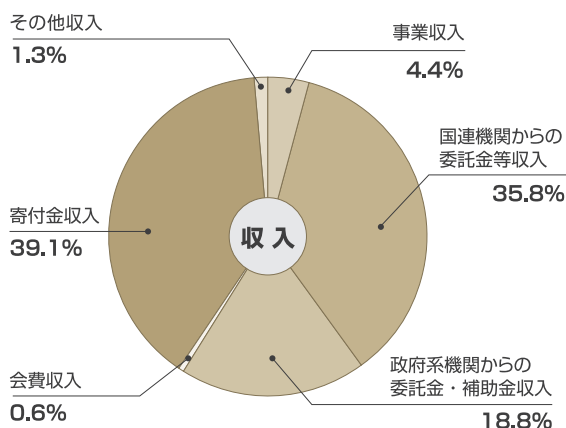
(単位：円)

1. 事業収入		16,446,247	16,446,247
2. 補助金等収入(注1)	国連機関からの委託金等収入	134,158,539	204,373,682
	政府系機関からの委託金・補助金収入	70,215,143	
3. 会費・寄付金収入	会費収入(注2)	2,320,380	148,649,713
	寄付金収入(注3)(注4)	146,329,333	
4. その他収入(注5)		4,892,285	4,892,285
当期収入合計(A)			374,361,927
前期繰越収支差額			61,546,898
収入合計(B)			435,908,825

### 【支出の部】

(単位：円)

1. 事業費	ミャンマーラカイン州北部地域開発事業	83,467,296	253,607,975
	ミャンマー中央乾燥地域における生活用水供給事業	38,148,753	
	ミャンマー南東国境事業	42,347,119	
	ミャンマーサイクロン被災地域復興支援事業	69,151,679	
	ミャンマーヤンゴン事務所	4,077,897	
	ベトナム事業	15,287,350	
	国内事業	1,127,881	
2. 管理費(本部費用)(注6)	人件費及び法定福利費	26,217,885	50,480,531
	その他	24,262,646	
3. その他支出(注7)			1,215,201
4. 法人税、住民税、および事業税			349,800
当期支出合計(C)			305,653,507
当期収支差額(A)-(C)			68,708,420
次期繰越収支差額(B)-(C)			130,225,318





## 貸借対照表

(2009年12月31日現在)

### 【資産の部】

(単位：円)

流動資産	現金預金	現金	632,451	175,697,640
		流動性預貯金	106,241,428	
		ミャンマー現預金	62,291,145	
		ベトナム現預金	5,746,378	
	棚卸資産	商品	241,786	
		立替金	470,605	
		未収入金	0	
	その他流動資産	前払金	0	
		仮払金	73,847	
		有形固定資産	機械装置	
固定資産				
資産合計				182,335,939

### 【負債の部】

(単位：円)

流動負債	未払金	222,459
	未払法人税	497,500
	未払消費税	438,200
	預り金	922,362
	仮受金	100
資産合計		2,080,621

### 【正味財産の部】

(単位：円)

事業積立金	50,000,000
次期繰越収支差額	130,255,318
正味財産合計	180,255,318

(単位：円)

負債及び正味財産合計	182,335,939
------------	-------------

監査報告書	
特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン (BAJ) の 2009 年度の 決算について、事業は適切に実施され、また収支計算書および貸借対照表は、 会計原則に基づいて作成され、監査の結果、相違ないことを認めます。	
2010 年 3 月 8 日	
監事	高塚直子 (印)

#### 注1 補助金等収入内訳 (単位：円)

国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)  
 ●ミャンマー/ラカイン州における技術ワーク  
 ショップ及びインフラストラクチャー事業  
 83,840,689

●ミャンマー/南東地域における復興・  
 給水施設建設事業  
 44,397,354

国連世界食糧計画 (WFP)  
 ●ミャンマー/ラカイン州北部における生活弱者層の  
 生活改善事業・食料配給活動  
 5,920,496

日本 NGO 連携無償資金協力  
 ●ミャンマー/中央乾燥地域における持続的な深井  
 戸給水システムをめざした生活用水供給事業  
 43,188,299

●ミャンマー/エヤワディ管区サイクロン被災村に  
 における学校校舎再建事業  
 27,169,222

●ベトナム/都市と農村部における子どもたちによる  
 資源循環・環境学習事業 (フエ市) 返還金  
 -63,011

#### 国際ボランティア貯金

●ベトナム/貧困世帯に対する居住環境改善及び  
 環境への意識向上のための生活インフラ整備、  
 環境教育指導 (フエ市) 返還金  
 -79,367

補助金等収入計 204,373,682

#### 注2 会費収入内訳 (単位：円)

正会員会費 個人会費 1,690,380  
 団体会費 630,000

会費収入計 2,320,380

#### 注3 寄付金収入内訳 (単位：円)

BAJ 寄付 30,975,326  
 まるごとサポーター 843,284  
 ミャンマー寄付 104,379,734  
 ベトナム寄付 8,924,989  
 輝けアジアの子ども基金 (ベトナム) 1,206,000

寄付金収入計 146,329,333

注4 主な寄付先は「国内活動報告 1 認定 NPO と資  
 金の調達 (1) 資金調達」にある表をご参照ください。

#### 注5 その他収入内訳 (単位：円)

商品売上 803,385  
 受取利息 46,826  
 その他収入 4,042,074

その他収入計 4,892,285

#### 注6 管理費 (東京本部費用) 内訳 (単位：円)

人件費及び法定福利費 26,217,885  
 退職金・退職共済掛金 9,992,500  
 旅費交通費 2,554,108  
 通信運搬費 1,326,344  
 調査研究費 673,921  
 事務用品費 441,250  
 広報費 2,950,511  
 賃借料 4,734,640  
 その他 1,589,372

管理費計 50,480,531

#### 注7 その他支出内訳 (単位：円)

商品売上げ原価など -110,405  
 その他支出 1,325,606

その他支出計 1,215,201



認定特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン

〒151-0071 東京都渋谷区本町3-39-3ビジネスタワー4F

TEL:03-3372-9777 FAX:03-5351-2395

E-mail:info@baj-npo.org http://www.baj-npo.org/

郵便振替口座 00130-739924 口座名 ブリッジエーシアジャパン

